

認定こども園の運営上の課題と工夫

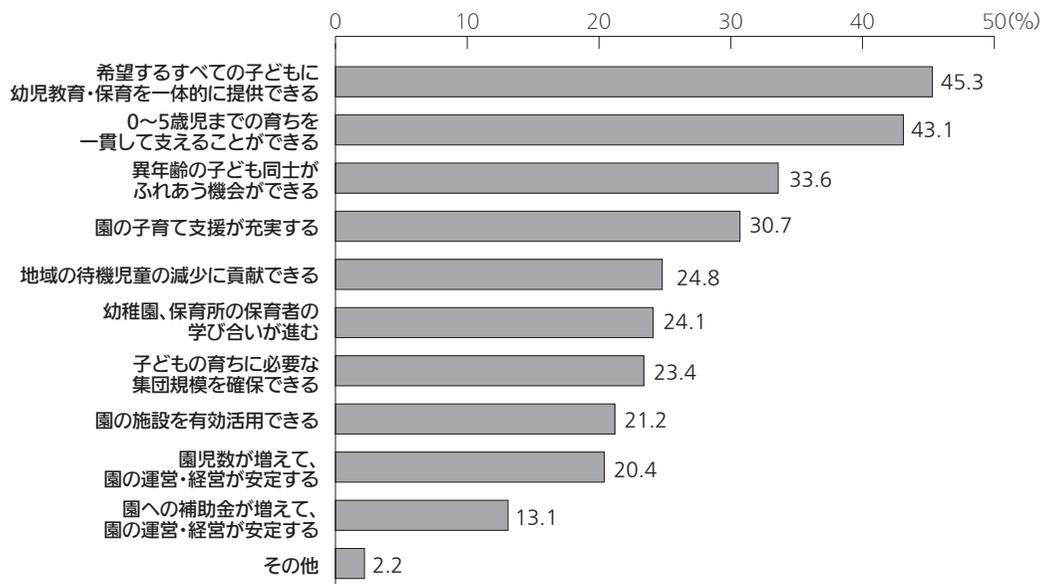
認定こども園は認定こども園になったことよさを感しながらも、幼稚園と保育所が一体になったことにより発生した課題も多く抱えている。またそれらの課題に対して、さまざまな工夫がなされていることがわかる。

前節では、私立幼稚園、私営保育所の認定こども園への移行に関する意識や不安・課題、期待できることに関する調査結果を述べてきた。本節では、すでに認定こども園になった園が園の運営上どのような課題を感じているのか、どのような工夫をしてきたのかについて分析を行ってみたい。認定こども園の現状を調査結果から明らかにすることで、これから移行したい園に少しでも示唆となればと考えている。

複数回答で、認定こども園になったことよさをたずねた結果を図4-2-1に示した。「希望するすべての子どもに幼児教育・保育を一体的に提供できる」(45.3%)、「0～5歳児までの育ちを一貫して支えることができる」(43.1%)は4割を超える回答が得られ、それぞれ1位、2位となった。認定こども園の設置主旨がうまく伝わったのか、それがそのまま園のよさとなった。「異年齢の子ども同士がふれあう機会ができる」「園の子育て支援が充実する」と回答したのは3割である。24.8%の園が「地域の待機児童の減少に貢献できる」を、20.4%の園が「園児数が増えて、園の運営・経営が安定する」を選択している。認定こども園になって、子どもの成長、地域の子育て支援、母親の就労支援、園の経営安定など、よいことがたくさんあると感じていることがわかる。

ができる」(43.1%)は4割を超える回答が得られ、それぞれ1位、2位となった。認定こども園の設置主旨がうまく伝わったのか、それがそのまま園のよさとなった。「異年齢の子ども同士がふれあう機会ができる」「園の子育て支援が充実する」と回答したのは3割である。24.8%の園が「地域の待機児童の減少に貢献できる」を、20.4%の園が「園児数が増えて、園の運営・経営が安定する」を選択している。認定こども園になって、子どもの成長、地域の子育て支援、母親の就労支援、園の経営安定など、よいことがたくさんあると感じていることがわかる。

図4-2-1 認定こども園になったことよさ（認定こども園）



注1) 複数回答。

注2) サンプル数は137。

第4章 認定こども園への移行

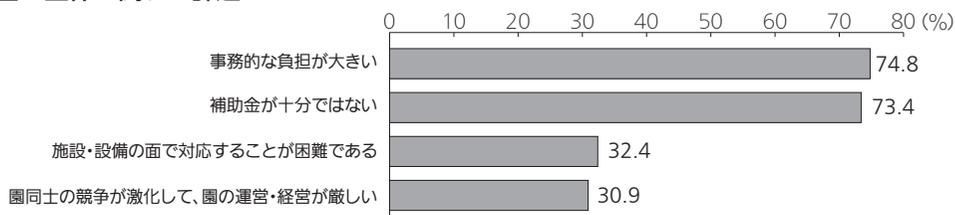
一方、運営上の課題もたくさんあるようである。本調査では、運営上の課題について、「その他」を含む15項目についてたずねてみた。項目内容が多岐にわたっているため、少し整理し4つに分類してみた（「その他」を除く）。選択肢は「以前から（今も続く）課題である」「以前は課題であったが、今は課題ではない」「以前は違ったが、今は課題である」「以前から課題ではない」と4つ示したが、ここでは、「以前から（今も続く）課題である」と「以前は違ったが、今は課題である」を合わせて、

運営上の課題として分析を行った。

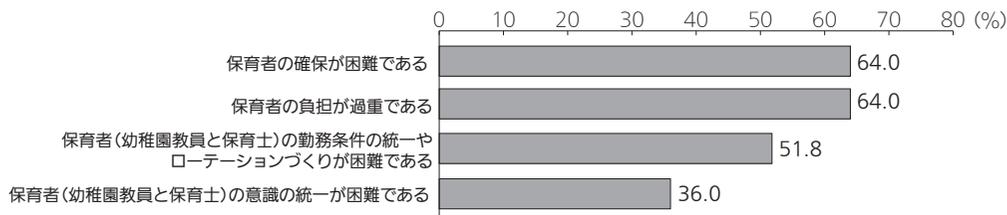
図4-2-2はその結果である。まず「①園の運営の全体に関する課題」をみると、全139園のうち、7割を超える園は「事務的な負担が大きい」と「補助金が十分ではない」を課題としている。「施設・設備の面で対応することが困難である」「園同士の競争が激化して、園の運営・経営が厳しい」は3割である。認定こども園になっても、施設・設備面での対応の難しさや園の経営の厳しさが依然として課題であることが明らかになった。

図4-2-2 認定こども園の運営上の課題（認定こども園）

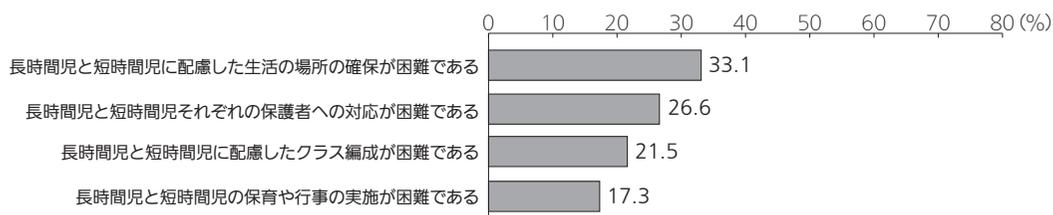
①園の運営の全体に関する課題



②保育者に関する課題



③園児・保護者への対応に関する課題



④時間確保に関する課題



注) 「以前から（今も続く）課題である」「以前は課題であったが、今は課題ではない」「以前は違ったが、今は課題である」「以前から課題ではない」という4つの選択肢のうち、「以前から（今も続く）課題である」と「以前は違ったが、今は課題である」の合計値を図にした。

次に、「②保育者に関する課題」では、「保育者の確保が困難である」「保育者の負担が荷重である」が6割を超え、ならんでトップとなる。さらに、保育者に関する課題のうち、幼稚園教員と保育士の間での勤務条件やローテーションの組み方、意識の統一など、幼稚園と保育所が一体となったことで発生した課題が多いことがわかる。

「③園児・保護者への対応に関する課題」をみると、長時間児と短時間児に対して、「配慮した生活の場所の確保が困難である」(33.1%)、「それぞれの保護者への対応が困難である」(26.6%)、「配慮したクラス編成が困難である」(21.5%)、「長時間児と短時間児の保育や行事の実施が困難である」(17.3%)と、「②保育者に関する課題」と同様に、幼稚園と保育所が一体となったことによって発生した課題といえる。

最後に、「④時間確保に関する課題」では、「会議や研修時間の確保」「保育の反省や翌日の準備を行う時間の確保」が困難であるとの回答はそれぞれ6割を超えている。

改めて①～④の課題を概観すると、事務的な負担、補助金の問題、また幼稚園と保育所が一体となったことにより発生した保育者の

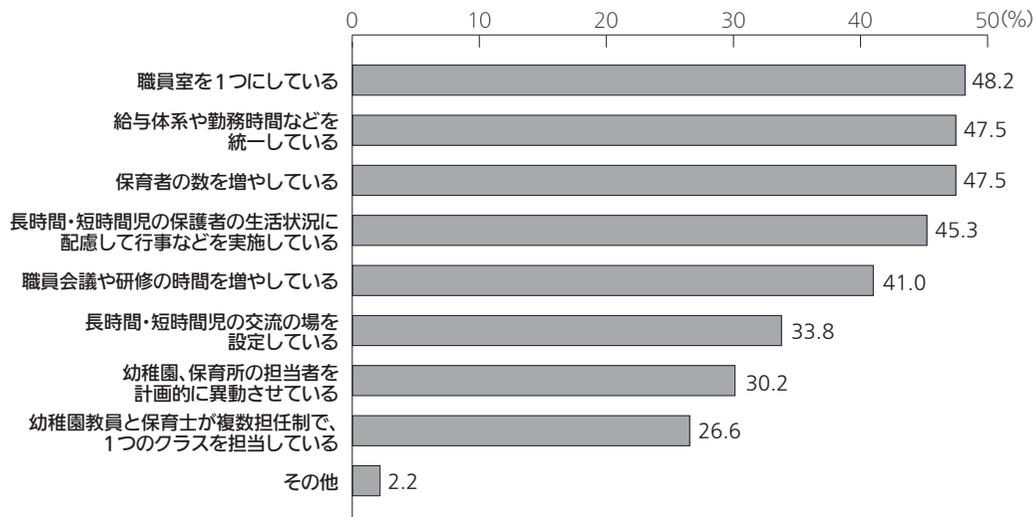
確保や、長時間児と短時間児がいることで必要となるさまざまな配慮など、認定こども園ならではの課題を抱えていることがわかる。

幼稚園と保育所が一体となったことにより発生した課題に対して、園ではどのような工夫をしているのだろうか。複数回答で、園が行っている工夫をたずねてみた。その結果を図4-2-3に示した。

「その他」を含む9項目のうち、5項目の選択率が4割を超えている。トップとなっているのは「職員室を1つにしている」、48.2%である。「給与体系や勤務時間などを統一している」と「保育者の数を増やしている」はともに、47.5%で2位を占める。4位、5位は「長時間・短時間児の保護者の生活状況に配慮して行事などを実施している」(45.3%)、「職員会議や研修の時間を増やしている」(41.0%)である。認定こども園特有の課題に対して、さまざまな工夫がなされていることがうかがえる。

本節から認定こども園になったことのよさも感じながら、さまざまな工夫を重ね、抱えている課題を乗り越えようとしている認定こども園の様子が読み取れる。

図4-2-3 認定こども園の運営上の工夫（認定こども園）



注) 複数回答。